

アメリカでお客様の声への取組みについて講演



2月22～25日、アメリカ・ジョージア州サバンナにおいて、米国公共交通協会（APTA）が主催する「Marketing, Communications & Customer Experience Workshop」が開催されました。当社からは、コーポレート・コミュニケーション部門 村越 雄太さんと荘司のぞみさんが登壇。「お客様の声」に関わるサービス担当社員の人材育成による対応力・品質向上の取組みについて講演しました。

警視庁の指導による災害図上訓練（DIG）を実施



2月12日、本社、各本部・支社などの防火・防災担当者が参加する会議において、警視庁より講師を迎え、災害図上訓練（DIG）*を実施しました。管轄エリアの特徴を知る、災害を想定する、グループワークで考えるなどの活動を通じて得られた学びを、実際の行動につなげるプロセスを体感しました。参加者からは、楽しく自職場周辺の特徴を知ることができ、ぜひ各箇所にも共有したいと好評の声が寄せられました。

*災害時に想定される危険などを地図上に書き込んでいく訓練のこと。DIGは、Disaster（災害）、Imagination（想像力）、Game（ゲーム）の頭文字からとったもの

「どこトレダイヤル」が2025年度IT奨励賞を受賞



当社のDigital & Data イノベーションセンター（DICE）が内製開発した「どこトレダイヤル」が、（公社）企業情報化協会主催の2025年度IT奨励賞（社会・環境価値の創出）を受賞し、1月29日に表彰式典が行われました。生成AIを活用して電話で運行情報を案内する本サービスは、そのわかりやすさと社会的価値、そしてDICEの技術力が対外的に評価され、今回の受賞に至りました。式典では池田副社長が登壇し、表彰盾を授与されました。

「広域品川圏」の共創まちづくりが本格スタート



3月28日、国際交流拠点「TAKANAWA GATEWAY CITY」がグランドオープンするとともに、都市生活共創拠点である「OIMACHI TRACKS」がまちびらきを迎えました。2つのまちの誕生により、「広域品川圏」の共創まちづくりが本格スタート。当日は2つのまちの様子を同時中継でつなぐ合同オープニングセレモニーが行われ、新たな門出を盛大に祝いました。

第9回「インフラメンテナンス大賞」で優秀賞を受賞

1月21日、国土交通省による第9回「インフラメンテナンス大賞」の表彰式が行われました。国土交通省をはじめ8省の所管施設での事例を対象に、わが国のインフラが直面する課題に対応して、インフラメンテナンスに係る優れた取組みや技術開発を表彰するもので、新幹線統括本部・本社設備部門・新潟支社が優秀賞を受賞しました。

■新幹線統括本部 新幹線設備部

手代木 卓也さんほか6名

「新幹線モニタリング車による線路設備のスマートメンテナンス」

■本社設備部門 土木ユニット 増井 洋介さん

（現：株J-BISメンテナンス）ほか6名

「新幹線トンネル検査のDXへの取り組み」

■新潟支社 新潟土木設備技術センター

明見 正雄さんほか6名

「レベル3.5飛行によるVTOL型ドローンを活用した鉄道斜面調査の取組み」



荷物専用新幹線の運行を開始

3月23日から荷物専用新幹線の運行を開始しました。より多量の荷物を高頻度で輸送してほしいというニーズに応え、E3系新幹線1編成の全号車を荷物専用車両として改造。正午前に盛岡新幹線車両センターを出発し、16時頃に東京新幹線車両センターに到着するダイヤで、E5系「やまびこ」と連結して運行しています。荷物専用新幹線の概要を紹介します。



輸送概要

- ・運行日：平日の定期運行（2026年3月23日～）
- ・輸送区間：盛岡新幹線車両センターから東京新幹線車両センター
- ・輸送形態：荷物専用新幹線（1編成7両）旅客輸送1～10号車・荷物輸送11～17号車
- ・積載量：最大17.4 t（1,000箱程度）

車両のデザイン

荷物専用新幹線は「はこビュン」のロゴをラッピングするなど特別なデザインが特徴。先頭車は医療関係品、農産物、水産物、機器類・電子部品といった代表的な輸送商材を大きくデザインし、中間車の窓にはエリアごとの主に輸送実績のある地産品などをあしらっています。当社の鉄道ネットワークを活かし、地域の商品・魅力をお届けするサービスであることを全面に押し出しています。



車内の特徴

荷物搭載スペースを確保するため、客室内の座席をすべて撤去。荷物をカゴ台車に載せたまま車内に搭載するため、床面をフラット化した上で鉄板を敷き、滑り止め加工をしています。また、車内に設置したベルトで荷崩れを防止。安全・安定輸送で商品をお届けします。



AGV (無人搬送車) の導入

新幹線車両センター内での荷物の搬送に関し、AGVにより120サイズ（20kg相当）の箱約40個分まで牽引搬送し、車両センター内のスロープや狭小ルートも含め自動搬送を実現しました。また、AGVの活用による荷扱い業務の省力化（4tトラックの荷物の場合、3～4往復程度で搬送）により、人手不足を考慮した働き方改革を推進しています。

